

大阪インターナショナルチャーチ： ブルース・アレン牧師

聖書箇所 ヨシュア記 1章10節, 16節-18節, ヨシュア記 2章1節-21節 (NLT版) 注釈除く

2025/03/09

メッセージ: イエスキリストの血潮の力はどこしえに失われることはない

O I Cのみなさまおはようございます。ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

前回のヨシュア記のメッセージで、私は次のようなコメントで締めくくりました。

「イエス様はヨシュアのように、ここ大阪で新たな領土（天の父なる神様の御心が成される地）を征服するよう私たちに呼びかけておられます。また、今後より輝く教会となるよう、神様を信じ、働くよう求めておられます。

皆さんの牧師である私は、OICにとって困難なこの時がOICの最良の時になると信じています。私は、神様の愛が天から私たちOICに降り注ぎ、私たちに降り注がれた神様の愛がドアから溢れ出て、死にゆく都市、大阪に届くのを信じて見えています。継続し、また同時に、新たなスタートを切りましょう。神様は私たちの挑戦に落胆されることはありません。私たちはイエス様によって罪の象徴であるエジプトの束縛から解放されました。私たちが罪の象徴であるエジプトから連れ出してくださった聖霊なる神様が、今もここにおられることを覚えながら、新たに建設する時なのです！恐れによって、イエス様を愛する私たちの心から信仰を追い出してはなりません。神様の誠実さが語られます。

<ハガイ書 2章5節>

エジプトを出た時、わたしの霊がおまえたちにとどまる、と約束した。だから恐れるな。』

そうです、人生は私たちの勇気によって縮んだり広がったりします！これは神様の民の心にとどまる聖霊なる神様によるものです。勇気を求め、ともに信じましょう！

今週は、神様の民を約束の地カナンへと導くヨシュアの姿を追います。私は今日のメッセージを次のようなタイトルにしました：ラハブの緋の糸をイエス様の血潮と結びつけ、「イエスキリストの血潮の力はどこしえに失われることはない」です。

<ヨシュア記 1章10節-11節>

ヨシュアは指導者たちを集め、人々にヨルダン川を渡る準備をさせるよう命じました。そして、はっきりと宣言したのです。「三日以内にわれわれはヨルダン川を渡る。神様が与えてくださる地を占領するのだ。」

ヨシュアは、ルベン族、ガド族、マナセ族の半分の家族にはヨルダン川のこちら側に留まるように指示し、彼らのすべての兵はヨルダン川を渡って戦うために前進するように指示しました。モーセの死後、民はヨシュアを新しい指導者として全面的に支持することを表明しています。

<ヨシュア記 1章16節 - 18節>

16彼らはそれを受け入れ、ヨシュアを総指揮官として、その命令に従うことを堅く誓いました。

17・18 「私たちは、モーセに従ったと同様、あなたに従います。主がモーセとともにおられたように、あなたにも伴われますように。ご命令に逆らう者はだれであろうと死に値します。どうぞ遠慮なく、断固とした姿勢で臨んでください。」

注目すべき点は、民衆がヨシュアに「だから強く、勇気をもってください！」と言ったことです。これは<ヨシュア記1章9節>で神様がすでにヨシュアに与えた勇気と励ましの呼びかけと同じです。

<ヨシュア記1章9節>

さあ、勇気を出しなさい。恐れたり迷ったりしてはならない。どこへ行っても、あなたの神であるわたしがついてる。」

【覚えておくべき重要点】 #1

神様の御業の働きにおいて、神様の御心を成すリーダーとイエス様を信じて従う人々が一致するとき、その一致には、神様の御心を成すリーダーであるのは人間ではなく神様がそのリーダーを通して働かれるという感覚が含まれます。

<ヨシュア記2章1節>

さてヨシュアは、シティムの野営地から対岸へ二人の偵察者を送り込むことにしました。任務は、特にエリコの様子を調べることでした。二人は娼婦ラハブの家に着きました。そこで夜を過ごす計画だったので。

私たちは、モーセが何年も前にカナンにスパイをどのように送ったかを思い出します。カレブとヨシュア以外の者たちは、信仰ではなく、恐れに心を支配されていました。

<民数記13章30節 - 32節>を読みます。

<民数記13章30節 - 32節>

30 この報告に、人々はざわつきました。しかし、カレブはモーセの前でみなを静めると、きっぱり言いました。「われわれは、すぐ攻め上ってカナンを占領しよう。大丈夫、やれば必ずできる。」

31 「むちゃなことを言うな。あんな強い相手では、かなうわけがない。とても歯が立つものか。」偵察に行ったほかの者は大反対です。

32 結局、ほとんどの者はあまり乗り気ではなかったため、彼らは人々に言いました。

「国中に兵士がおり、住民はたくましい体格をしている。」

【覚えておくべき重要点】 #2

今、神様がヨシュアに与えられた勇気は、ヨルダン川の端で、このスパイたちに受け継がれました。

そうです、良い病気のようにうつったのです。コロナのような悪い病気にかかるのとは正反対です。信仰と勇気は、あなたの周りのすべての人に影響を与えます。使徒パウロが<へブル人への手紙10章24節>で書いているように、

<へブル人への手紙10章24節>

神が成し遂げてくださったすべてのことにこたえて、私たちが互いに愛し合い、善行に励もうではありませんか。

信仰と勇気を持つことは、他のクリスチャンのモチベーションを高めます。

【覚えておくべき重要点】 #3

神様のために新たな領域を開拓するには、反対もあるでしょう。

<ヨシュア記 2 章 2 節 - 7 節>

2 ところがエリコの王に、「イスラエル人のスパイらしい、怪しい二人組が、今晚、町に忍び込んだ」と通報する者がありました。

3 王はすぐに憲兵隊をラハブの家に差し向け、二人の引き渡しを要求しました。「あいつらはスパイだぞ。イスラエルが送り込んだのだ。どうやってわれわれを攻撃しようか、探りに来たのだ。」

4 しかしラハブは、二人をかくまったまま、憲兵隊長に答えました。「ああ、あの人たちならとっくに帰ったよ。ここにいたんだけどねえ。まさかスパイだなんて、思いもよらなかったわ。

5 町の門が閉まるころ、夕闇にまぎれて町から出て行きたい。行き先までは知らないけど、急いで追いかければ捕まえられるかもしれないよ。」

6 ところが実際は、彼女は二人を屋上へ連れて行き、乾燥させるために積み上げた亜麻（麻糸の材料となる植物）の中に隠していたのです。

7 そうとも知らず、憲兵たちは二人を追って、くまなく捜しながらヨルダン川まで下って行きました。その間に、町の門は閉じられました。

今、私たちは遊女ラハブの輝かしい信仰告白を見ます。永遠の命に気づいて神様の信仰の賜物を受けるあらゆる罪人に聖書は義を主張するものをすべて捨てています。遊女であろうと、一流であろうと、有名人であろうと、すべての人は罪を犯し、神様の栄光には及びません。

<ローマ人への手紙 3 章 23 節>

すべての人は罪を犯したので、神の標準にはほど遠い存在です。

新約聖書がクリスチャンに述べていることは、旧約聖書においても真実です。

<エペソ人への手紙 2 章 8 節>

あなたがたは、恵みにより、キリストを信じることによって救われたのです。しかも、そのキリストを信じることも、あなたがたから自発的に出たことではありません。それもまた、神からの賜物（贈り物）です。

旧約聖書における神様の基準に従ってラハブの救いの証を読みましょう。

<ヨシュア記 2 章 8 節 - 11 節>

8 ラハブは、二人がまだ寝ないうちに屋上に上って来て、彼らに言いました。

9 「あなたたちの神様が、この地をあなたたちのものにしようとしていることは、よくわかっています。みんな怖がっているわ。イスラエルと聞いただけで震え上がるほどよ。

10 だって、イスラエルの人たちがエジプトを出た時、神様が紅海に道をつくられたっていうじゃない。それに、ヨルダン川の東側にいたエモリ人の二人の王様、あのシホン王とオグ王をどんな目に会わせたかということも、みんな聞いてるわ。何でもそこを攻め落とし、住民を皆殺しにしたんですって？

11 そんなことを聞いたら、怖がらないほうがおかしいでしょう。戦う勇気なんか吹っ飛ばすもの。あなたたちの神様はただの神様じゃないわね。きっと、天地を支配なさるお方に違いないわ。

ラハブの信仰は勇気あるものでした。ラハブには、イスラエルの神様というよりすぐれた王がおられたから、彼女はエリコの王に逆らうことを選びました。

<ヨシュア記 2 章 3 節- 4 節>

3 王はすぐに憲兵隊をラハブの家に差し向け、二人の引き渡しを要求しました。「あいつらはスパイだぞ。イスラエルが送り込んだのだ。どうやってわれわれを攻撃しようか、探りに来たのだ。」

4 しかしラハブは、二人をかくまったまま、憲兵隊長に答えました。「ああ、あの人たちならとっくに帰ったよ。ここにいたんだけどねえ。まさかスパイだなんて、思いもよらなかったわ。」

今、ラハブは神様への心からの信仰を表明した後、神様のスパイたちと勇敢なそして勇気ある言動になっています。

<ヨシュア記 2 章 12 節- 14 節>

12・13 だから、一つだけお願いを聞いてほしいの。このエリコを占領する時、いのちだけは助けてもらえないかしら。私の両親や兄弟、それにその家族も。そのことを、あなたたちの神様の聖なる御名にかけて誓ってください。あなたたちを助けた私の真心に応えてほしいのです。」

14 彼らはうなずきました。「われわれのことをしゃべらなければ、あなたにも家族にも傷一つ負わせないと誓おう。いのちにかけても、あなたを守る。」

勇気と信仰を持ったスパイたちは、ラハブの信仰告白を聞き、彼女を真実だと認めました。ラハブの罪深い過去は、スパイ達にとって何の意味もありません。スパイ達は自分達の命をかけて彼女に誓いました。

<ヨシュア記 2 章 15 節- 21 節>

15 ラハブの家は町の城壁の上にあったので、二人の偵察者は、綱で窓からつり降りしてもらいました。

16 ラハブは二人に注意しました。「山へお逃げなさい。あなたたちを捜してる追っ手が引き返して来るまで、三日間、隠れていればいいわ。それからお帰りなさい。」

17・18 二人は別れぎわにこう言い残しました。「いいかい。この赤いひもを窓に結びつけておきなさい。そして、両親や兄弟など身内の者はみな、この家でいっしょにいなさい。そうでなければ、何が起きても責任はもてない。」

19 一歩でもこの家から外へ出たら保証はないが、この家にいるかぎり、一人だって殺されたり傷つけられたりはしないと、はっきり約束しよう。

20 ただし、もしあなたが裏切れば、誓いは無効だ。いいね。」

21 「そのとおりにするわ。」こうしてラハブは、窓に赤いひもを結びつけました。」

【イエスキリストの血潮の力】

<ヘブル人への手紙 9 章 22 節>で聖書は言っています。

<ヘブル人への手紙 9 章 22 節>

古い契約のもとで、すべてのものは、血をふりかけることによってきよめられたと言えます。血を流すことなしに、罪の赦しはないのです。

ローマ人への手紙は、人間の罪の問題は、十字架上のイエス様の死と十字架上で流されたイエス様の血潮の犠牲によってのみ解決されることを明らかにしています。私たちの主イエス様は神様の言葉です。聖書全体を通して主イエス様が現れるというのは真実です。主イエス様の血潮の犠牲の伏線は、エリコとの戦いでイスラエルのスパイがラハブとその家族を守るためのしるしに示されています。イスラエル兵が住民を皆殺しにするためにエリコに入るとき、ラハブは身を守るためにスパイ達がラハブのために選んだ緋色の糸を窓から外側につるしました。緋色の糸は、イエス様が十字架上で私たちの罪のために流された緋色の血潮の比喻であり、似せたものです。イエス様が十字架上で私たちの罪のために流された緋色の血潮は、天敵であれ霊的な敵であれ、すべての敵に対する私たちの守りです。

【イエス様の血潮は私たちを贖われた】

使徒ペテロのクリスチャンへの教えを、私たちは次のように読んでいます。

<ペテロの手紙 I 1章 17節 - 20節>

17 あなたがたが祈りをささげる天の父なる神は、人の行いをすべて、正しく公平にさばられます。ですから天に行くその日まで、主を恐れ、慎み深く生活しなさい。

18 神は、あなたがたの先祖が天国への道を外れ、むなしい努力を重ねてきた生き方からあなたがたを救い出すために、身の代金を払ってくださいました。それは、金や銀のような朽ちる物ではなく、

19 一点の罪もしみもない神の小羊、キリストの尊い血によって支払われたのです。

20 神はこのために、世の始まる前から、キリストを選んでおられました。そしてこの終わりの時代に、あなたがたへの祝福として、キリストを遣わされたのです。

【イエス様の血潮は、私たちを日々守り続けられる】

<ヘブル人への手紙 10章 12節>

しかしキリストは、いつまでも有効な、ただ一つのいけにえとして、私たちの罪のためにご自分を神にささげ、そのあと神の右の座について、

そして、<ヘブル人への手紙 12章 24節>

またさらにあなたがたは、新しい契約をもたらしたイエスご自身と、復讐を叫ぶアベルの血ではなく、恵みに満ちた罪の赦しを与える血に近づいているのです。

イエス様は神様の右に座しておられます。神様の右の座で主イエス様は、私たちが新しく生まれ変わるよう、祈りと力をもってとりなしてくださいました。主イエス様はまたクリスチャンが告白した罪を聖めるために、主イエス様の血潮による新しい契約を日々霊的に適用されます。それゆえ、主イエス様はまた、振りかけられたイエス様の血潮によって私たちの赦しを仲介し、私たちを安全に保ち、日々力を与えてくださいます。

【イエス様の血潮は成功の中で私たちを謙遜にする】

神様は、私たちがイエス様とともに歩む人生の成功を喜んでくださいます。私たちは主イエス様との関係に確信を持つことができます。しかし、私たちは常に神様に完全に依存していることを覚えていなければいけません。主イエス様が<ヨハネの福音書 15章 5節>で、

わたしはぶどうの木で、あなたがたはその枝です。人がわたしのうちに生き、わたしもその人のうちに生きているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては何もできません。

とされています。

使徒パウロもまた、＜ガラテヤ人への手紙 6 章 14 節＞

しかし私は、主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものなど何ともありません。十字架によって、私は、この世のものすべてに対して興味を失ってしまいました。この世も、私に対する興味をすっかり失ってしまったのです。

と表現しています。

【主イエス様の血潮は悲しみの谷で私たちに励ます】

イエス様と共に栄光の中でとこしえに生きる私たちの最終的な平安と安全は、イエス様が私たちの罪のための血の犠牲として神様に完全に従順であられたことに全面的にかかっています。私たちはイエス様が私たちの罪のための血の犠牲として神様に完全に従順であられた御業を増やすことはできないし、私たちの失敗が奪うこともありません。主イエスは十字架の上で、死の最後の息の中で、私たちのためにこう叫ばれました。

＜ヨハネの福音書 19 章 28 節 - 30 節＞

28 こうして、何もかもすっかり終わったことを知ったイエスは、「わたしは渇く」と言われました。これも聖書のことばどおりの出来事です。

29そこには、ちょうど酸っぱいぶどう酒のつぼが置いてありました。人々は海綿を浸し、ヒソプの枝の先につけて、イエスの口もとに差し出しました。

30それをお受けになると、最後に、「すべて成し遂げた」とひとこと叫び、頭を垂れて息を引きとられたのです。

【私たちの信仰の模範のラハブ】

ラハブはスパイを喜ばせるためだけに信仰告白をしたのか、それとも本当に神様への信仰なのか、私たちは疑問に思うかもしれません。しかし、ラハブは旧約聖書に記録されているだけでなく、新約聖書にも記録されています..... 私たちの主イエス様の家系と同じように、マリアの夫ヨセフに至るまで。

＜マタイの福音書 1 章 4 節 - 6 節＞を読みましょう。

4 アラムはアミナダブの父、アミナダブはナアソンの父、ナアソンはサルモンの父です。

5サルモンはボアズの父〔母はラハブ〕、ボアズはオベデの父〔母はルツ〕、オベデはエッサイの父です。

6 エッサイはダビデ王の父、ダビデはソロモンの父〔母はウリヤの妻でした〕です。

では、何世代もとばして＜マタイの福音書 1 章 16 節＞にこうあります。

そして、ヤコブはヨセフの父です〔このヨセフが、キリストと呼ばれるイエスの母マリヤの夫となった人です

ラハブは、聖霊なる神様が彼女を聖書の信仰の英雄のリストに入れたために、真の神様に従い続けました。

<ヘブル人への手紙 11 章 31 節>

売春婦ラハブは、神とその力とを信じていたので、イスラエルの偵察隊を自分の家にかくまいました。その信仰によって、彼女は、神への服従を拒んだエリコの住民が滅ぼされた時に救い出されたのです。

ラハブは勇気をもって、イスラエルの真の神様とイスラエルのスパイによる約束を信仰で信じました。ラハブは緋の糸に信仰をもっていました。クリスチャンは、命の緋の糸である主イエス様の血潮に信仰をもちます。ラハブの信仰は、彼女とその家族を破滅から救いました。私たちの信仰は、神様の裁きと永遠の滅びから私たちを救います。ラハブの信仰は新しい人生へと導かれました。遊女から神様に仕える生き方へと導かれ、その結果、彼女の何代も後の.....孫、主イエス様の母マリアの夫ヨセフが生まれたのです。主イエス様の血潮の私たちの信仰は、私たちがキリストにあって新しく創造され、豊かな人生を送るよう導きます。

【今日の緋の糸と主イエス様の血潮】

ラハブは、通行人が明らかな赤い緋色の糸に気づくかもしれないという危険を冒しました。明らかな赤い緋色の糸は窓から吊り下がっていたのです！私の人生が、主イエス様の血潮の罪の贖いの効果をすべての見物人に気づかせるものであれば、それは私にとって良いことでしょうか。何を恥じることがあるのでしょうか？人であれ悪魔であれ、眺めようとするなら眺めさせます、しかし主イエス様の血潮は私たちの誇りであり、私たちの歌です！親愛なるクリスチャンの皆さん、励まされてください。たとえ信仰の弱さから私たち自身が主イエス様の血潮という緋の糸を見ることができなくても、主イエス様の血潮という緋の糸を見てくださる方がおられるからです。破滅が訪れるとき、裁き主である神様は主イエス様の血潮という緋の糸をご覧になります。エリコが文字通り陥落したとき、城壁は超自然的に陥落しました。わたしたちは<ヨシュア記 6 章 20 節>にこの出来事を見ます。

<ヨシュア記 6 章 20 節>

20 祭司の吹き鳴らすラッパの音を聞くと、人々はあらん限りの大声を出して、いつせいにときの声を上げました。と、どうでしょう。突然、城壁がくずれ落ちたのです。それとばかり、四方八方から攻め込み、彼らはたちまちエリコの町を占領しました。

しかし、ひとつの壁は崩れませんでした！ラハブが住んでいた城壁でした。ラハブが住んでいた城壁は、ラハブと彼女の家族を守るために、緋色の糸を窓から吊り下げてしっかりと立っていました。主イエスキリストの血潮が塗られた家の中にいる家族だけが安全なのです。私たちの本性は人間の壁に組み込まれています。しかし、人類を破滅が襲うとき、私たちクリスチャンは安心していられるでしょう。親愛なる OIC 教会、主イエス様の血潮の緋の糸を私たちの窓に新たに結び、安らかに過ごしましょう。

祈りましょう